

佐世保でも病診連携

10/11 西日本

あじさいネット 疾患発見など期待 年内にも拡充

長崎、県央両地区を中心に、地域の基幹病院と診療所が患者情報などを共有する医療連携システム「あじさいネットワーク」が、年内にも佐世保市に拡充される。設備が整った大病院と、かかりつけ医が協力することで疾患の早期発見と患者の利便性向上、負担低減につながる仕組みとして期待されている。

あじさいネットは、患者などが閲覧できるほか、一者の同意を前提に基幹病院のかかりつけ医が基幹病院の電子カルテを開業医にしかない高度医療機器

の検査予約もできる。検査が終われば、受け取った検査結果のデータと所見を自分の病院での診察に生かせる。

システム運営主体のNPO法人「長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会」によると、これまで長崎、県央、五島、東彼各地区などの診療所約160施設と、長崎医療センター（大村市）、長

崎大学病院（長崎市）など基幹の14病院が加盟。佐世保市では既に市立総合、佐世保中央の両病院が本格運用。佐世保共済病院も今月から試験運用を始め、診療所は7施設が加わった。旧市域で残る基幹の長崎労災病院も運用を目指しており、年内にも全域でシステムが整備される見通しだ。

同システムについて市立総合病院の石川啓副院長は「基幹病院は重篤な疾患や専門的なケースに集中できるようになり、患者双方のメリットは大きい」と話している。